

ぐるめ散歩

洋菓子

パティスリー セジュール

パティスリー セジュールは厳選した素材の持ち味を生かしたオリジナルケーキが人気の洋菓子店。店内には定番と季節限定の生ケーキ約15種と焼き菓子約18種などが並ぶ。14日目のバレンタインデーを前にフランス産チョコレートなどを使ったオリジナルの新作チョコレート菓子も提供する。

オーナーの藤田剛さん(61)が昭和57年に創業、オーガニック素材を使い自



藤田剛輔さん



然の味を生かした夢のあるケーキを提供するほか、市主催のスイーツ逸品コンテストに出品した「天使のミルティーク」が優秀作品賞を獲得したのをはじめ、「狛江ポテト」や狛江市観光協会推奨商品の「こまえ縄文マドレーヌ」など市内産の素材を使った狛江ゆかりの菓子を創作。



☎3480-8862 和泉本町1-2-8 営業=午前10時～午後6時 月・火曜休み



親子二人三脚で取り組む 狛江ゆかりの創作菓子

の有名店などで修行した息子の京輔さん(37)が加わり、親子二人三脚でレパートリーを広げている。生ケーキ担当の京輔さんはシューパブリゼンヌ、苺のショート、2種のチーズを使ったバスクチーズケーキなどスタンダードなケーキに力を入れている。「安心・安全なケーキを家族で楽しんでいただくとともに、見た瞬間と食べた瞬間の2つの感動に重点を置いたケーキ作りを心がけています」と京輔さんは話している。

■おすすめMENU■

- ①モンブラン ¥520 / ②バスクチーズケーキ ¥509 / ③シューパブリゼンヌ ¥240 / ④ショコラ ¥555 / ⑤苺ショート ¥580 / ⑥ショコラのショートケーキ ¥500 / ⑦こまえ縄文マドレーヌ ¥160 / ⑧狛江ポテト ¥250 / ウィーンのレング通り ¥1400 (税別)

平成26年から都内

20年後へメッセージ タイムカプセルで1,650枚保存



タイムカプセルに手紙を封入

20年後の自分にあてたメッセージを収めたタイムカプセルの封入式が12月12日(土)に中央公民館で行われ、その後、市役所市民ひろばに設置された。

タイムカプセルの事業は狛江青年会議所主催、狛江市共催で実施された。

封入式では小学生を代表して和泉小学校6年の中村勇斗さんと河端美空さんが自分の手紙を読み上げてからタイムカプセルに入れ、続いて松原俊雄市長が残

りの手紙を収めた。タイムカプセルにはこのほか、市制施行50周年の記念誌や新聞、同会議所の会員の手紙などが入れられた。

手紙を収めたタイムカプセルは12月21日(土)に市民ひろばの植栽に再び設置され、20年後に開封されるまでメッセージを守り続ける。

タイムカプセルは平成2年に当時の小中学生が書いた手紙を収めて市役所市民ひろばに設置されたが、昨年7月に30年ぶりに開封され、現在では40歳前後になっている人たちに送られた。

同会議所ではタイムカプセルの再利用を計画、創立40周年と市制施行50周年を記念して「タイムカプセル～ミライへの手紙～」を実施した。市内の小中学生に呼

びかけて「20年後の私へのメッセージ」を募集、約1,650枚が寄せられた。

タイムカプセルの土台には「2020年はCOVID-19(新型コロナウイルス)によって、社会が未曾有の混乱に陥り、誰もが不安を抱く年となりました」「20年後の未来が明るい豊かな社会になり、子どもたちの夢が叶うことを祈り、2020年から2040年まで保存します」となどと記されている。

親子で農業の参加募集 ジャガイモ、枝豆栽培

JAマインズが農業体験「親子でアグリ」の参加者を募集している。

都市農業への理解や食農教育を目的に催すもので、猪方3丁目の畑でジャガイモと枝豆を栽培して収穫する。日程は3月20日(土)施肥・畝づくり・ジャガイモ植え付け、4月24日(土)除草作業、枝豆

種まき、7月3日(土)収穫・片付けの3回(天候などにより変更あり)で、初回のみ午前9時にJAマインズ狛江支店集合。対象は狛江市在住の幼児・児童とその保護者で、定員10組(応募多数の場合は抽選)、参加費は1世帯1,000円(傷害保険代、種・肥料代等)。

申し込みは2月22日(土)までに電話(☎3488-3435)またはファクス(FAX3488-2830)でJAマインズ狛江支店経済指導部門へ。

節分の豆まき中止に 伊豆美神社

中和泉3丁目の伊豆美神社が2月2日(土)の節分の日に予定していた豆まきの開催を中止する。

同神社の豆まきには例年多くの人が訪れていたが、新型コロナウイルス感染症に対する緊急事態宣言が発出されたのに伴い、中止を決めた。



成人式はオンラインで

松原俊雄市長(左)に誓いの言葉を述べる佐々木薫平さんと栗山咲紀さん

新成人は微増の767人

狛江市の成人式が1月11日(土)に催され、新型コロナウイルス感染症による緊急事態宣言が発出されたため、エコルマホールから式典とアトラクションの様子をYouTubeLIVEでオンライン配信した。

式典では、松原俊雄市長が「コロナ禍とはいえ、同級生たちとの再会の場を用意できなかったことは残念です。新型コロナウイルス感染症によって直接顔を合わせて人と接する機会が少なくなったことで、人と人のつながりや絆の大切さを改めて考える機会が生まれたと思います。皆さんには一つ一つの出会いやつながりを大切に、相手を思いやり、優しさを持って人と人をつなぐような存在となってください」と新成人へはなむけの言葉を贈った。その後、新成人代表の佐々木薫平さんと栗山咲紀さんが「コロナによって人とつながりを感じにくい環境になってしまいましたが、逆境の時こそ、ひたむきに努力する姿勢を忘れず、目標に向かい、全集中で突き進んでいくことを誓います」と誓いの言葉を述べた。



フォトスポットに人気

メッセージが配信されると、視聴数が大きく増えるなど、実行委員たちは新しい式のかたちに手応えを感じていた。約1時間20分の配信でのべ2,713アカウントが視聴した。また、当日見逃した人のために、成人式実行委員会のYouTubeチャンネルでお式典などの様子も公開している。

公募した新成人11人が実行委員(田中直樹実行委員長)として昨年9月からアトラクションの企画などの準備を進め、当初は午前と午後の2回開催する予定だった。しかし、緊急事態宣言の発出で式典の中止を決める自治体が相次ぐなかで、狛江市は当日のオンライン配信の準備を進めてきたこともあり、検討の結果、オンライン開催に切り替えた。

田中実行委員長は「オンライン配信の成人式はコロナ禍だからこそできた。初めはとまどいでしたが、アクセス数が増えて落ち着きました。苦労しましたが、成人式中止を免れたことがうれしく、大成功だったと思います」と話していた。

エコルマホールのロビーには成人式フォトスポットが設けられ、晴れ着の新成人66組195人が訪れた。同市の新成人は昨年より16人多い767人。

狛江三中の银杏募金に 慈恵第三病院が感謝状

東京慈恵会医科大学病院附属第三病院が12月25日



峰事務部長(右)から感謝状を受け取る神農さん(中央)、工藤校長(左)

に、同院へ银杏募金を寄贈した狛江第三中学校(工藤聡校長)へ感謝状を贈った。

同校は、30年前から校内のイチヨウの実を使って被災地などに募金を贈る活動に全校生徒で取り組んでいる。今年度は新型コロナウイルス感染症対策に取り組んでいる医療機関へ贈ることを決め、松原俊雄市長を通じて12月23日(土)に慈恵第三病院へ220,672円を届けた。病院では中村敬院長から感謝状を贈ることを決め、峰隆志事務部長が同校を訪れ、工藤校長と生徒代表で银杏募金活動を担当している地域貢献委員会委員長の神農若奈さん(2年生)に感謝状を手渡した。

峰事務部長は「将来に残るものに募金を使わせていただきます」「イチヨウの実から银杏を作ったり、寒い中での募金活動を若い皆さんがやるのはすごいことで、病院の教職員はみんなうれしく感じました。この募金をきっかけに三中生から医療の道を目指す人が出てくることを期待しています」と感謝していた。神農さんは「こんなに早く感謝状をいただき、とてもうれしい。これからの活動の励みになります」と喜んで

いた。工藤校長は「三中では命を大切にする教育をしてきましたので、これをきっかけに慈恵第三病院と良い関係を保っていきたい」と話していた。

多摩川堤防を快走 初のグリーンマラソン

第1回の狛江多摩川グリーンマラソンが12月20日(土)に催され、小学生から70代まで約230人が多摩川堤防で健脚を競った。

狛江多摩川グリーンマラソン実行委員会が、環境に優しく気軽にチャレンジできるランニングを多くの人に楽しんでもらおうと狛江市と狛江市教育委員会の後援で催した。

西河原公園付近を起点に多摩川堤防上に設定された親子1km、10km、ハーフマラソンの3クラスに分かれて行われた。新型コロナウイルス感染症の影響でマラソン大会などの中止が相次いでいるため、狛江近郊のランニング愛好者の関心が高く、ハーフマラソンは短時間で定員の100人に達した。市内の参加が多かった親子1kmではサンタの衣装などで仮装して走る親子もいた。

参加者は「山並みときれいな川の風景を楽しみながら、久しぶりに走る事ができた」と語る人が多かった。

同会では「自然とスポーツの共存やランニング愛好者を増やしたい」とランニング記録会も定期的に催している。



多摩川堤防で行われたハーフマラソン